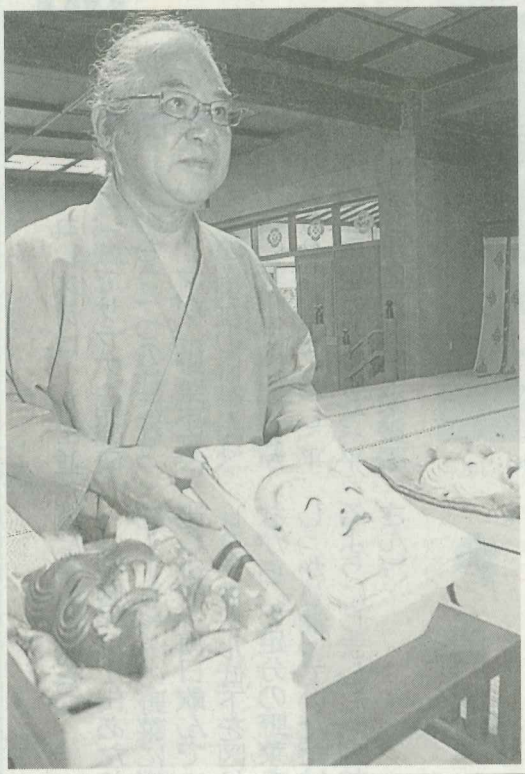
「延命冠者」能面を奉納

亀山八幡宮

防府の松田さん「翁舞」使用の3作目



延命冠者（中央）などの能面を奉納する松田さん

「秀吉公と同じ場所、光栄」

防府市切畑、能面師、松田龍仁さん(69)が7日、下関市中之町、亀山八幡宮（竹中恒彦宮司）に、最も古いといわれる能「翁舞」で使う「延命冠者」の能面（縦19センチ、横14センチ）を奉納した。一昨年から毎年能面を奉納しており、これで3作目。【尾垣和幸】

「翁舞」は能の原点とされ、天下太平、五穀豊穣を願う舞。延命冠者の能面のほかに、シテ(主役)の「白式尉」、「黒式尉」、「父尉」の四つの面を使う。亀山八幡宮は簡略化した能を毎年10月、「翁渡式」で奉納している。

亀山八幡宮は約410年前、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際、白式尉の面（市有形文化財）を奉納したことで知られる。しかし、白式尉の面を除く3面がないことを知り、松田さんは制作を買って出た。08年に黒式尉を、09年に父尉の面を奉納している。

能面は伝統の技を形にして、いかに忠実に再現するかが大事。参考にした延命冠者の面には、本来あるはずのひげがなかったが、そのまま再現した。「空想で手を加えるのは邪道と言われています」と松田さん。3カ月以上をかけて、入魂の作を仕上げた。

「秀吉公が奉納された面は素晴らしい出来栄え。その同じ場所に奉納できて光栄です」。奉納式で静かに手を合わせた松田さん。緊張から解放されたのか、笑顔がこぼれた。

2010年（平成22年）9月8日（水）　毎日新聞

2010年（平成22年）9月8日　水曜日　山口新聞

亀山八幡宮に能面三つ目奉納

10月、亀山能で公開

防府の能面師・松田さん

防府市の能面師、松田竜仁さん(69)が7日、中之町の亀山八幡宮（竹中恒彦宮司）に能面を奉納した。

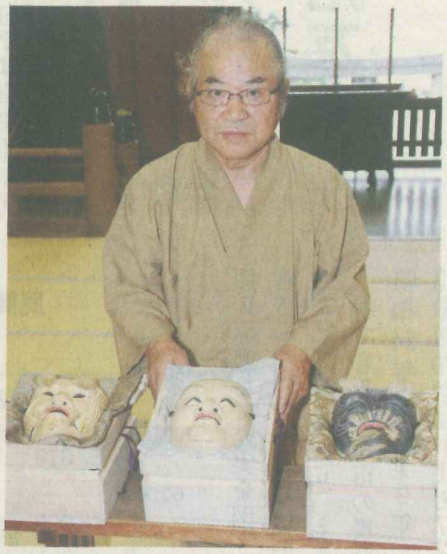
松田さんは、同八幡宮が豊臣秀吉が奉納した能面「白式尉」を保有していることを知った。白式尉は奉納能「翁（おきな）の舞」で使う面の一つ。翁の舞は4種類の面が必要だが、同八幡宮にはなかったことから、松田さんは残りの面を制作、奉納することにした。2008年に「黒式尉」、09年に「父尉」、今回「延命冠者」といわれる長寿を祈る面を奉納した。「三つ奉納できてほっとしている」と松田さん。竹中宮司は「後世に伝え、翁の舞を奉納するときに使わせていただきます」と話した。

三つの面は10月23日に開かれる今年の亀山能（午前11時開演、拝観料4千円）で一般公開される。問い合わせは同八幡宮（☎083・231・1323）へ。

三つの面を奉納した松田竜仁さん。面は左から父尉、延命冠者、黒式尉

亀山八幡宮に能面奉納

来月公開



三つの能面を奉納した松田さん

防府市の能面師、松田龍仁さん(69)が7日、下関市の亀山八幡宮（竹中恒彦宮司）に能面を奉納した。

同八幡宮は、初代長府藩主の毛利秀元が奉納した翁系の能面「白式尉」を所蔵。松田さんは2008年から毎年、1面ずつ翁系の面を奉納し、3面目となる今回の「延命冠者」で、能の「翁」に使う4面がそろった。

松田さんは「延命冠者は長寿を祈る面なので、特に心を込めて作った。4面がそろってほっとした」と話していた。

延命冠者は、松田さんがこれまで奉納した2面と一緒に、市無形文化財「亀山能」が行われる10月23日に同八幡宮に展示、公開される。

2010年(平成22年)9月9日(木曜日)　讀賣新聞